

糖尿病に 膵島移植

NPPO法人健康医療開発機構が15日シンホ

糖尿病の治療方法として膵島移植が注目され始めている。現在はインスリン注射が一般的だが、膵島移植は点滴で可能なため患者への負担が少ない。インスリン注射の必要もなくなる。だが、膵島移植を普及させるには超えなければならぬ多くのハードルがある。NPPO法人健康医療開発機構は15日に都内で開催するシンポジウムで膵島移植について紹介する。この分野の第一人者で同日講演する米ベイラー膵島細胞研究所(テキサス州)の松本慎一ディレクターに膵島移植の現状と課題について聞いた。

米ベイラー膵島細胞研究所 ディレクター

松本 慎一氏に聞く



膵島移植とはどのような治療方法ですか。「膵臓の中にはブドウ糖の調節に重要な役割を果たす膵島細胞がある。その細胞を膵臓から分離し、患者に移植する治療法だ。糖尿病には1型と2型があるが、より重病な1型糖尿病の治療に用いられている。点滴で行うため膵臓移植と比べて患者への負担が少ない。インスリン注射の必要もなくなる」

患者に点滴、負担少なくて

まず米で標準治療に

「世界的に膵島移植の成功率を発表し、注目されるようになった。カナダのアルバータ大学で成功例を発表し、注目を集めた。実績が十分でない日本での状況は、まだ一部、膵臓から膵島の分離が効率よくできず、また膵臓移植が一般的だ」

「世界的に膵島移植の成功率を発表し、注目されるようになった。カナダのアルバータ大学で成功例を発表し、注目を集めた。実績が十分でない日本での状況は、まだ一部、膵臓から膵島の分離が効率よくできず、また膵臓移植が一般的だ」

「次の段階として、日本の患者さんに米国で治療を受けてもらう渡航準備を進めている。日本では最新医療を海外から輸入する傾向が強い。最新医療の確立には地道な作業が必要で、お金や手間暇がかかるからだ。新しいアイデアを育てる土壌作りも必要だ」

患者の立場で環境整備を

「20世紀は臓器移植の時代、21世紀は細胞移植の時代。膵島移植はその先駆けになる」と松本ディレクター

記者の目

「20世紀は臓器移植の時代、21世紀は細胞移植の時代。膵島移植はその先駆けになる」と松本ディレクター